

## 楷の木の木蔭に楷を語る

山中太木<sup>1)</sup>・藤本十四秋<sup>2)</sup>・湧上順三<sup>3)</sup>

楷樹（孔子の木、中国音チアイ）

*Psittia chinensis Regel.* [茶統：SSTY-1]

「北支曲阜の聖林に楷樹あり、子貢之を植う。枝幹素にして屈せず直し、質を以って其の直を得るなり。秋季には紅葉を成し、煎ずれば芳苦、茗茶に代うべし。

進士に合格すれば楷の笏を授け、枕にすれば悪夢なし、棋秤にすれば香韻閑にして清々し。

吾人は素直にして不屈、医道に香韻芳しく錦を成さん哉」一九八一年辛酉三月、三節会卒業記念。

これは現在大阪医科大学校庭一隅に植えられた楷樹で樹周二・五m、樹高約三・〇mの記念樹である。言うまでもなく十年以内の幼樹は一見雑木の如く、樹相もないが、楷書を思わず枝幹の大成を楽しみとして期待されている。

一方熊本大学医学部にある山崎記念館前の楷の木はすでに大成して、不踰距の歳を過ぎた本邦唯一最大の名木として尊敬を蒐めている。

今回、第九〇回医史学会総会が熊本大学で開催される機会に、会長鹿子木敏範教授に敬意を表しつつ、数年前の大台風

によって一枝を風折した枯枝の禍を転じて福と成した孔子像および笏（高本榊花作）を供覧し、楷の木のルーツ談義を明確にしたい。

1) (大阪医科大学名誉教授)

2) (熊本大学医学部)

3) (熊本大学附属病院恵和会理事長)